

タチカワレポート

第77期 中間報告

2022年 1月1日

2022年 6月30日

 立川ブラインド工業株式会社

証券コード：7989



家庭に、企業に、都市の中に。
次代の生活文化を創造する、様々な事業を展開。
インテリア産業の一翼を担う企業として、
これからも時代を先駆ける活動を展開してまいります。

代表取締役社長

池崎久也

平素は格別のご支援ご愛顧を賜り誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2022年6月30日をもって第77期上半期（2022年1月1日から2022年6月30日まで）が終了致しましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

当該期間の売上高は、主力の室内外装品関連事業が低調に推移しましたが、駐車場装置関連事業および減速機関連事業においては前年を上回り、連結全体では微増となりました。また、利益面につきましては、コスト低減に努めた結果、経常利益において、増益となりました。

今後とも株主の皆様の一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2022年 9月

経営の基本方針

当社グループは、ブラインド類・間仕切類を事業の核とするインテリアメーカーとして、また、長年培ってきた歯車技術を活かした機械式立体駐車装置、減速機メーカーとして今日に至っております。

その時代の要請に応え、お客様の信頼を得ることを第一に、国内外の多様な要望に応えることのできる製品の研究開発・生産の充実と高品質なサービスの提供により、生活環境の改善を図り、皆様の期待に応えることを経営の基本方針としております。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種普及などにより、行動制限が緩和され、経済活動の持ち直しの動きが見られましたが、ウクライナ情勢の長期化等による原油・原材料価格の上昇や中国のゼロコロナ政策、急速な円安進行などにより先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループ関連の建設・住宅業界は、短期的にはコロナ禍での住宅着工戸数減少の反動により持ち直しの動きが見られましたが、世界的な原材料の逼迫や価格高騰等、事業環境の先行きは不透明な状況であり、また長期的には世帯数の減少や住宅の長寿命化等により新設住宅着工戸数が年々減少傾向にある等、厳しい環境となっております。

このような環境の下、当社はSDGsへ賛同し、環境に配慮した製品の提案等、持続可能な社会へ向けて取り組みました。室内外装品関連事業においては、生活様式や働き方が大きく変化する中、多様化するニーズに応じた、より安心・安全で快適な住空間づくりを目指し、顧客満足度の高い製品の開発および新製品の市場浸透を促進してまいりました。

また、駐車場装置関連事業においては、くし歯式の強みを活かした営業展開により新規開拓に取り組みとともに、既設物件に対する計画的な改修提案や付加価値提案を推進し、受注・収益の獲得に努めてまいりました。

減速機関連事業においては、顧客ニーズに応えた個別製品の開発による提案営業を進め、新規顧客獲得に注力するとともに、生産体制の改善等による収益獲得に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は20,366百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は2,360百万円（前年同期比1.5%減）、経常利益は2,466百万円（前年同期比0.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,551百万円（前年同期比1.8%減）となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等の適用により売上高は135百万円減少し、営業利益は47百万円減少しております。

業績の見通し

国内景気は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の普及や各種政策により次第に回復に向かうことが期待されますが、一方で新たな変異株の出現、原材料の逼迫や価格高騰、さらにはウクライナ情勢の長期化や中国のゼロコロナ政策、急速な円安進行など事業環境を取り巻く状況は先行き不透明です。

このような環境の下、室内外装品関連事業におきましては、生活様式や働き方が大きく変化している中、ポストコロナを見据え、ニーズを的確に捉えた製品の開発や、環境の変化に応じた営業活動を展開し、製品の提供に取り組みとともに、リフォーム需要や海外市場の獲得強化、非住宅市場での拡販に取り組み、さらなる売上拡大・収益確保に努めてまいります。駐車場装置関連事業では、業界トップレベルの入出庫スピードや省エネ性、耐震性を誇る当社の「くし歯技術」を活かした付加価値開発を行い、積極的な提案活動を展開するとともに、既設物件に対する改修改修提案を推進し顧客満足度の向上に努めてまいります。減速機関連事業では、当社の保有技術を活かした製品の差別化戦略により物流・工場自動化設備等の成長分野においてシェア拡大を図ってまいります。

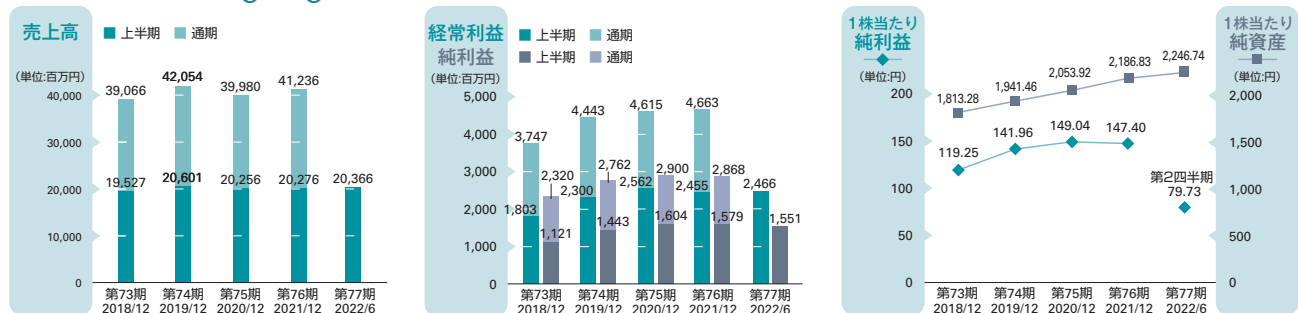
これらを踏まえ、2022年12月期の通期の連結業績予想につきましては、現時点において2022年2月4日に公表しました予想に変更はありません。

中間配当金について

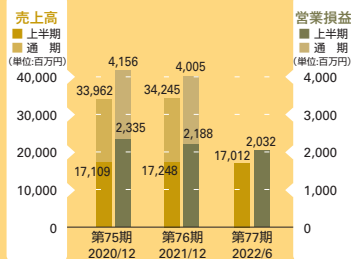
中間配当につきましては、1株につき10円とさせて頂きます。なお、利益配分に関する基本方針に基づく年間配当につきましては、内部留保を充実させ将来の事業展開に備えるとともに、企業価値・株主価値を向上させることを目的として、業績に応じた配当を適宜判断し行う予定としております。

Financial Highlights

財務ハイライト



室内 外装品 関連事業



17,012百万円

スマートで便利な暮らしの提案として、電動カーテンレール『スマートインテリアシェード ホームタコス ティエルモ』や、丸型ポールのシンプルなデザインとマットな質感・カラーで様々なシーンにフィットする装飾カーテンレール『マルティ』を発売しました。また、プリーツスクリーンのリニューアルを行い、『ペルレ ダブル』『スマートインテリアシェード ホームタコス ペルレ ダブル』、ハニカムスクリーン『プレア ペア』等、窓まわりの断熱による省エネ効果に優れた製品を新たに市場導入し、オンライン説明会などで市場浸透に努めました。

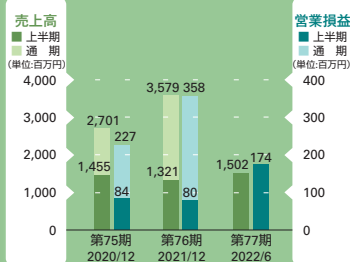
その他、窓まわりの電動製品『スマートインテリアシェード ホームタコス』や、おうち時間の増加による室内空間の間仕切りニーズの高まりを受け、昨年機能と納まりを拡充した間仕切り『プレイス』『プレイス スウィング』、さらに昨年大幅にリニューアルしたロールスクリーン『ラルクシールド』やタテ型ブラインド『ラインドレープ』など、付加価値の高い製品の訴求に注力しました。

しかしながら、売上高は17,012百万円(前年同期比1.4%減)となり、営業利益につきましては、継続的なコスト低減活動等に努めましたが、材料費が増加し、2,032百万円(前年同期比7.1%減)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により売上高は132百万円減少し、営業利益は44百万円減少しております。

83.5%
連結セグメント別
売上高構成比
合計
20,366百万円

駐車場装置関連事業

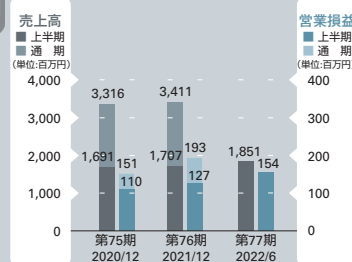
1,502百万円



新築工事において、主力製品である「パズルタワー」の工事が進捗するとともに、改造改修案件の受注が堅調に推移したことで、売上高は1,502百万円(前年同期比13.7%増)となりました。営業利益につきましては、主に売上高の増加により、174百万円(前年同期比117.1%増)となりました。

減速機関連事業

1,851百万円



企業の収益改善等により設備投資動向に持ち直しの動きが見られる中、定番品に加え無人搬送台車駆動用減速機など、当社が得意とする個別製品をはじめとした、各種産業用減速機の受注が堅調に推移したことにより、売上高は1,851百万円(前年同期比8.4%増)となりました。営業利益につきましては、売上高の増加により、154百万円(前年同期比20.8%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により売上高は3百万円減少し、営業利益は3百万円減少しております。

SDGsへの取り組み

立川ブラインド工業は、SDGsに賛同し、ブラインドや間仕切をはじめとするインテリア製品を通じて、「人にやさしい快適な環境づくり」を提案するとともに、環境負荷を低減しながら、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

● SDGsの目標達成のため、当社は5つの項目に重点をおいて取り組んでいます。

建築物内外の生活環境の改善



- 高性能・高品質な製品開発、省エネに寄与する製品開発
- インテリアデザインの追求
- 最新技術への取り組み
- 安全・安心の追求

環境負荷低減



- ISO14001に基づく活動
- CO₂排出削減
- 廃棄物の削減
- 水の管理
- 資源の有効活用

働きやすい労働環境と社員の多様性



- 社員の多様性と柔軟な働き方の推進
- 人材育成
- 社員の健康管理の増進

持続可能性かつ透明性の高い企業活動




- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント

社会貢献活動




- 主な活動内容（デザイン・芸術・文化に携わる人々の活動の場を提供、被災地支援等、更生保護財団の設立）



詳しい取り組みは当社ホームページをご覧ください。

<https://www.blind.co.jp/corporate/sdgs/index.html>



中長期的な会社の経営戦略

当社グループでは、厳しい経営環境下においても安定した収益を計上できる事業体制の構築に向け、以下の項目を重点戦略としております。

①時代の要請とニーズに応えた製品開発と市場導入

新型コロナウイルスの感染拡大により生活様式や働き方等が大きく変化する中で、多様化するニーズに応じたより安心・安全で快適な住空間づくりを目指し、顧客満足度の高い製品を開発・提供する。

②成長分野への取り組み強化

需要が高まる電動製品や、間仕切りをはじめとするリフォーム需要、海外市場などの成長分野への取り組みを強化する。

③生産体制の強化

原材料の世界的なひっ迫や価格高騰が続く中においても、高品質かつ安定供給を維持し、また、生産拠点毎の生産品目の適正化と在庫の適正化にも注力する。

④経営資源の整備

将来にわたる安定的な収益基盤の構築およびリスクマネジメント強化を図る為、事業拠点や生産設備といった経営資源を計画的に整備する。

⑤サステナビリティについての取り組み

SDGsに賛同し、ブラインドや間仕切りをはじめとするインテリア製品を通じて、「人にやさしい快適な環境づくり」や「環境に配慮した製品」を提案するとともに、自社においても、CO₂排出量や廃棄物等の削減を推進し、環境負荷を低減しながら、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献する。

また、柔軟な働き方の推進、地域限定等の柔軟な採用、人材育成を通じ、経営の基盤となる人材確保に注力する。

プリーツスクリーン『ペルレ ダブル』『ホームタコス ペルレ ダブル』・ ハニカムスクリーン『ブレア ペア』 新発売

【2022年5月】

おうち時間をより快適に、暮らしに選択肢をご提案するプリーツスクリーン『ペルレ ダブル』『ホームタコス ペルレ ダブル』・ハニカムスクリーン『ブレア ペア』を新発売しました。



ホームタコス ペルレ ダブル

ハニカムスクリーン『ブレア ペア』は、ハニカム（ハチの巣）生地とプリーツ生地（レース）を上下に組み合わせ、上下の生地の分量を調整することで、部屋に入る光の量を調整できます。

プリーツスクリーン『ペルレ ダブル』は、25mm幅にプリーツしたドレープ生地とレース生地を『前後』に配置した二重構造で、窓まわりの断熱性を高めることができ省エネ効果に優れています。

また、『ホームタコス ペルレ ダブル』は、窓まわりの電動製品であるスマートインテリアシェード ホームタコスシリーズの新製品。リモコンやスイッチで簡単に操作ができて、手が届かない高窓や複数ある窓の操作に活用いただけます。



ペルレ ダブル

電動カーテンレール『ホームタコス ティエルモ』・装飾カーテンレール『マルティ』 新発売

【2022年2月】

居住空間における電動製品需要に応えるべく、電動カーテンレール『ホームタコス ティエルモ』を新発売しました。

製品幅10m、カーテン適正重量25kgまで対応し、動作音は優れた静音性を実現しました。窓まわりの電動製品スマートインテリアシェード ホームタコスで展開しているブラインドやロールスクリーン等と同時に操作することも可能です。

丸型ボールのシンプルなデザインとマットな質感・カラーで様々なシーンにフィットする装飾カーテンレール『マルティ』は、デザイン性のみでなく、リングランナーの走行性・静音性にも考慮しました。また、レールにアクセサリ感覚で取付けてアレンジできる「デザインリング」をラインナップし、マルチなデザインを楽しんでいただけます。



ホームタコス ティエルモ



マルティ

窓まわりアイテムの工夫でおうち時間をより快適に

窓まわりの工夫がおうち時間の「快適」につながるをご存知ですか？
 コロナ禍をきっかけに生活様式が変化し、増加したおうち時間を快適に過ごすためには、窓まわりの工夫もポイントになります。
 部屋の中で大きな面積を占める窓まわりのアイテムは部屋のイメージを大きく左右するのはもちろん、部屋の明るさの調整や、外からの視線を遮ってプライバシーを保護するなど、様々な機能があります。



ペルレ ダブル【2022年5月発売】



前：ドレープ生地

後：レース生地

窓まわりの断熱性を高め、省エネ効果を向上します。

プリーツスクリーン「ペルレ ダブル」

2枚の生地を前後に配した二重構造で
 「快適性」や「省エネ性」を両立

朝昼はレースで
 明るく採光

夜はドレープで
 プライバシーを確保



プライバシーを守りながら、光をコントロール
 昼・夜でドレープとレースの使い分けができます。

ショールームのご案内

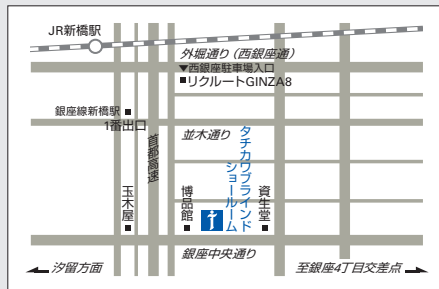
G I N Z A

銀座

タチカワブラインドショールーム



タチカワブラインド銀座ショールームでは、お客様に満足いただけるよう、豊富なインテリアの知識をもったスタッフが、新製品の紹介をはじめ新しいコーディネート提案など、窓まわりや間仕切製品のいろいろな可能性をお伝えしています。



〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-15 青柳ビル
 TEL (03) 3571-1373

営業時間 10:00~18:00 定休日 月曜・祝日(土・日曜除く)
 JR・銀座線新橋駅より徒歩5分 銀座4丁目交差点より徒歩8分

ショールーム一覧

新宿ショールーム	東京都渋谷区代々木2-16-4 タチカワ新宿ビル1F TEL (03) 3375-7071 定休日 水曜・祝日 営業時間 10:00~18:00
札幌ショールーム	北海道札幌市中央区南三条西12-325-3 3F TEL (011) 231-8051 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00
仙台ショールーム	宮城県仙台市青葉区高町5-1-12 1F TEL (022) 275-1311 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00
信越ショールーム	新潟県新潟市東区大形本町1-2-23 TEL (025) 270-8111 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00
横浜ショールーム	神奈川県横浜市中区日本大通15 横浜朝日会館2F TEL (045) 662-0838 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30
名古屋ショールーム	愛知県名古屋市区見玉3-4-4 3F TEL (052) 532-5085 定休日 日曜・祝日 営業時間 9:00~17:30
金沢ショールーム	石川県金沢市東力4-181 1F TEL (076) 291-1146 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30
大阪ショールーム	大阪府大阪市北区中津2-3-5 2F TEL (06) 6374-1813 定休日 日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30
高松ショールーム	香川県高松市木太町六区2662-1 1F TEL (087) 837-2720 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:00
広島ショールーム	広島県広島市南区東雲本町3-1-31 1F TEL (082) 284-1412 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 10:00~17:30
福岡ショールーム	福岡県福岡市中央区大手門1-4-5 1F TEL (092) 739-0203 定休日 土曜・日曜・祝日 営業時間 9:00~17:30
上海ショールーム	中華人民共和国上海市徐匯区宜山路290号 TEL 0086-21-5396-6803 定休日 春節 営業時間 9:00~18:00

連結財務諸表 (要旨)

総資産

総資産は61,170百万円で、前連結会計年度末と比較し482百万円の増加となりました。

流動資産は39,581百万円で、前連結会計年度末と比較し881百万円の減少となりました。これは主に、棚卸資産が増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したことによるものであります。

固定資産は21,588百万円で、前連結会計年度末と比較し1,363百万円の増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得や、投資有価証券の取得によるものであります。

負債

負債は12,750百万円で、前連結会計年度末と比較し763百万円の減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金、電子記録債務が減少したことによるものであります。

純資産

純資産は48,419百万円で、前連結会計年度末と比較し1,246百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。なお、自己資本比率は71.5%と、前連結会計年度末と比較し、1.4ポイントの増加となりました。

キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ、348百万円減少し、17,579百万円となりました。

【営業活動】

営業活動による資金は、1,871百万円の増加(前年同期は844百万円の増加)となりました。

これは税金等調整前四半期純利益2,481百万円に対し、減価償却費423百万円、売上債権の減少額1,394百万円等による増加があった一方で、棚卸資産の減少額807百万円、仕入債務の減少額434百万円、法人税等の支払額836百万円等による減少があったことによるものであります。

【投資活動】

投資活動による資金は、1,808百万円の減少(前年同期は603百万円の減少)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出1,277百万円、投資有価証券の取得による支出600百万円によるものであります。

【財務活動】

財務活動による資金は、448百万円の減少(前年同期は424百万円の減少)となりました。

これは主に、配当金の支払411百万円、リース債務の返済による支出36百万円等によるものであります。

>> 連結貸借対照表

(単位:千円) (単位:百万円)

科目	当第2四半期 2022年6月30日現在	前 期 2021年12月31日現在	増減(△)
資産の部			
流動資産	39,581,523	40,462,886	△ 881
固定資産	21,588,638	20,224,901	1,363
資産合計	61,170,161	60,687,788	482
負債の部			
流動負債	10,201,953	10,987,958	△ 786
固定負債	2,548,735	2,526,368	22
負債合計	12,750,688	13,514,326	△ 763
純資産の部			
株主資本	43,367,430	42,202,231	1,165
資本金	4,475,000	4,475,000	-
資本剰余金	4,395,060	4,395,060	-
利益剰余金	35,170,206	34,004,861	1,165
自己株式	△ 672,836	△ 672,690	△ 0
その他の包括利益累計額	346,142	346,017	0
非支配株主持分	4,705,899	4,625,212	80
純資産合計	48,419,473	47,173,461	1,246
負債・純資産合計	61,170,161	60,687,788	482

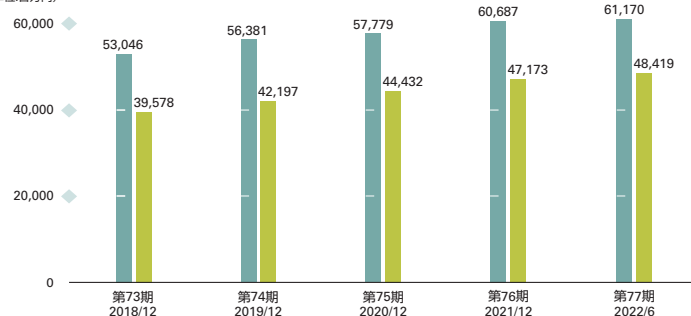
>> 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	前第2四半期 2021年1月1日から 2021年6月30日まで	前 期 2021年1月1日から 2021年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,871,853	844,678	2,128,164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,808,490	△ 603,485	△ 2,011,210
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 448,248	△ 424,817	△ 679,001
現金及び現金同等物に係る換算差額	36,744	17,238	33,027
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△ 348,139	△ 166,385	△ 529,019
現金及び現金同等物の期首残高	17,927,970	18,456,990	18,456,990
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	17,579,830	18,290,604	17,927,970

>> 総資産／純資産

(単位:百万円)



>> 連結損益計算書

(単位：千円)

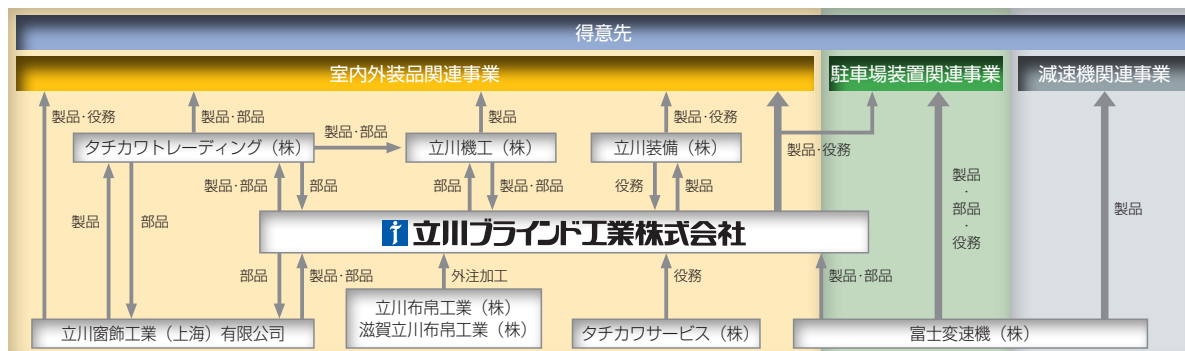
科目	当第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	前第2四半期 2021年1月1日から 2021年6月30日まで	前 期 2021年1月1日から 2021年12月31日まで
売上高 (前年同期比)	20,366,023 (+0.4%)	20,276,835 (+0.1%)	41,236,839 (+3.1%)
売上原価	11,596,365	11,246,416	23,344,971
売上総利益	8,769,658	9,030,418	17,891,867
販売費及び一般管理費	6,408,838	6,633,770	13,334,268
営業利益 (前年同期比)	2,360,819 (△1.5%)	2,396,647 (△5.3%)	4,557,599 (+0.5%)
営業外収益	114,625	108,965	201,149
営業外費用	8,811	50,072	95,532
経常利益	2,466,633	2,455,540	4,663,216
特別利益	63,185	252	32,324
特別損失	48,318	3,517	164,447
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,481,499	2,452,274	4,531,093
法人税、住民税及び事業税	718,622	751,124	1,529,324
法人税等調整額	112,680	58,994	△ 27,811
四半期(当期)純利益	1,650,197	1,642,155	3,029,581
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	98,862	62,707	161,579
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	1,551,335	1,579,448	2,868,002

>> セグメント情報

(単位：千円)

当第2四半期 2022年1月1日から2022年6月30日まで	室内外装品関連事業	駐車場装置関連事業	減速機関連事業
売上高 (前年同期比)	17,012,580 (△1.4%)	1,502,349 (+13.7%)	1,851,093 (+8.4%)
営業利益 (前年同期比)	2,032,155 (△7.1%)	174,514 (+117.1%)	154,150 (+20.8%)

- 事業の系統図 当社グループ(連結会社)は、当社および子会社8社で構成され、室内外装関連製品、機械式立体駐車装置等の製造販売およびそれらの設計施工を主な内容とし、さらに各事業に関連するサービス等の事業活動を展開しております。



(注) 富士変速機(株)は名古屋証券取引所に上場しております。

■ 主なグループ会社

立川機工株式会社

本社所在地：千葉県山武市

資本金：3億円

事業内容：ブラインド、間仕切等の部品
およびカーテンレールの製造販売

立川装備株式会社

本社所在地：東京都渋谷区

資本金：3億円

事業内容：ブラインド、間仕切等の据付
および関連製品の販売

富士変速機株式会社

本社所在地：岐阜県岐阜市

資本金：25億750万円

事業内容：変速機、減速機、立体駐車装置
および間仕切の製造販売

■ 会社の概要

社名	立川ブラインド工業株式会社
英文社名	TACHIKAWA CORPORATION
創業	1938年（昭和13年）5月
設立	1947年（昭和22年）10月
資本金	44億7,500万円
国土交通大臣許可	内装仕上工事業（般-2）第5037号 建具工事業（般-2）第5037号 機械器具設置工事業（般-2）第5037号 建築工事業（特-2）第5037号
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7989
本社所在地	東京都港区三田三丁目1番12号
電話	(03) 5484-6140
ホームページアドレス	https://www.blind.co.jp
従業員数	連結1,284名 単体830名 ※パート・契約社員等を除く

■ 営業品目

区分	品目の内容
ブラインド類	ヨコ型ブラインド、タテ型ブラインド、天窓用ブラインド、ロールスクリーン等
間仕切類	アコーディオン式間仕切、パネル式間仕切
その他	カーテンレール、製品取付、その他

■ 連結会社

国内	
富士変速機株式会社 岐阜県岐阜市中洲町18	タチカワトレーディング株式会社 東京都港区三田3-1-12
立川機工株式会社 千葉県山武市松ヶ谷口2687	タチカワサービス株式会社 東京都港区三田3-1-12
立川装備株式会社 東京都渋谷区代々木2-16-4	
立川布帛工業株式会社 新潟県五泉市今泉709-1	
滋賀立川布帛工業株式会社 滋賀県愛知郡愛荘町東円堂923-1	立川窗飾工業（上海）有限公司 上海市嘉定区葉城路1630号

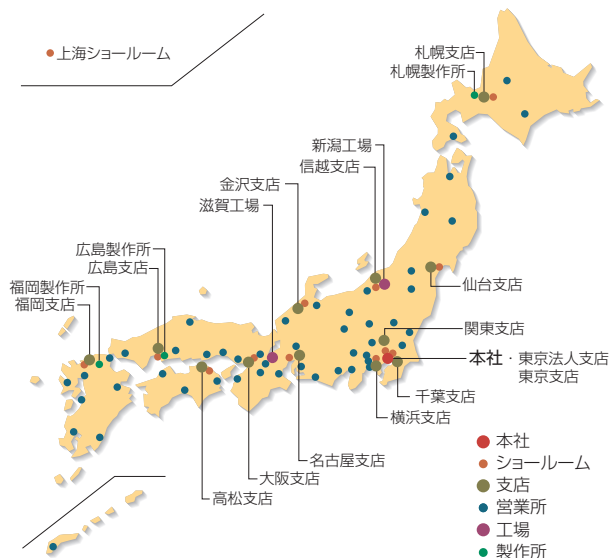
海外

■ 取締役および監査役

代表取締役会長	立川 光 威
代表取締役社長	池崎 久 也
取締役	小野 寿 也
取締役	神上園 圭 介
取締役	立川 孟 視
取締役	田中 久 晶
取締役	佐藤 弘
取締役	宮本 實 ※1
常勤監査役	栗原 斉
監査役	杉原 麗 ※2
監査役	芹澤 眞 澄 ※2

(注) ※1 取締役のうち宮本實氏は社外取締役であります。
※2 監査役のうち杉原麗および芹澤眞澄の両氏は、社外監査役であります。

■ 当社ネットワーク



■ 株式の状況

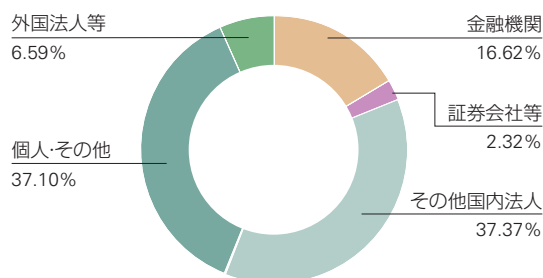
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	20,763,600株
株 主 数	6,365名

大株主および持株数（上位10名）

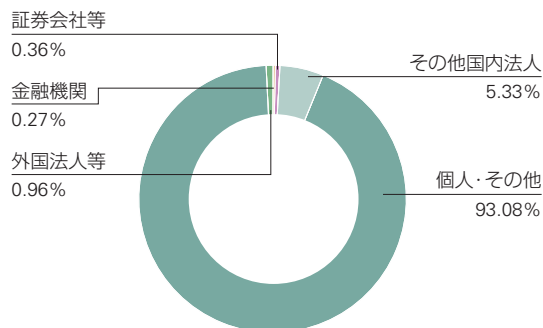
株 主 名	持株数(千株)	議決権比率(%)
有限会社立川恒産	4,117	21.20
タチカワブラインド取引先持株会	2,038	10.50
更生保護法人立川更生保護財団	1,331	6.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,181	6.09
株式会社三菱UFJ銀行	553	2.85
立川 光威	498	2.56
株式会社りそな銀行	460	2.37
日本生命保険相互会社	373	1.92
タチカワ社員持株会	307	1.58
天馬株式会社	304	1.57

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 (注) 2. 当社は自己株式1,307千株を保有しておりますが、上記の表には記載していません。

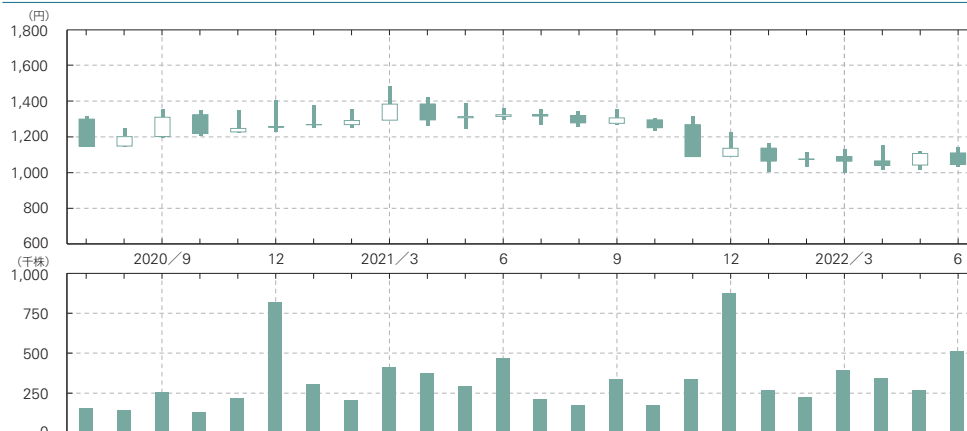
■ 所有者別持株比率



■ 所有者別株主比率



■ 株価および出来高の推移



当社ホームページでは決算短
信などのIR情報や、当社事業
や製品・サービスなどさまざ
まな情報を発信しております。

<https://www.blind.co.jp>



株主優待のご案内



[優待内容] クオカード (イメージ)



① オリジナルクオカードの贈呈 (300株以上保有の株主様)

基準日：12月末日 (年1回)

所有株式数・保有期間に応じて、オリジナルクオカードを以下の通り贈呈いたします。

所有株式数	保有期間	
	3年未満	3年以上
300株以上 500株未満	1,000円分	1,500円分
500株以上 1,000株未満	2,000円分	2,500円分
1,000株以上	3,000円分	4,000円分

② 当社対象製品ご購入優待 (100株以上保有の株主様)

基準日：6月末日・12月末日 (年2回)

当社製品をご購入いただいた株主の皆様へ所有株式数・購入台数に応じて、以下の通り贈呈いたします。

所有株式数	優待内容
100株以上 300株未満	当社製品購入1台まで、1台あたりクオカード 2,000円分贈呈
300株以上 500株未満	当社製品購入2台まで、1台あたりクオカード 2,000円分贈呈
500株以上 1,000株未満	当社製品購入3台まで、1台あたりクオカード 2,000円分贈呈
1,000株以上	当社製品購入5台まで、1台あたりクオカード 2,000円分贈呈

※ 対象株主の方へ所定の申し込みハガキを送付いたします。

事業年度 1月1日～12月31日

定時株主総会 毎年3月

定時株主総会基準日 12月31日

剰余金配当基準日 12月31日 (期末配当)
6月30日 (中間配当)

公告方法 電子公告によります。
公告掲載URL

<https://www.blind.co.jp/koukoku/>

※事故その他のやむを得ない場合は、日本経済新聞に掲載いた
します。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 日本証券代行株式会社

単元株式数 100株

登録情報 (ご住所、配当金振込先など) の変更、その他諸手続きについて

一般口座の株主さまは、お取引口座のある証券会社にてお取扱いしております。
特別口座の株主さまは、特別口座管理機関 日本証券代行(株)へお問い合わせ下さい。

配当金の受取りについて

配当金領収証をお近くのゆうちょ銀行または郵便局へお持ち下さい。
また今後、銀行振込をご希望の方は、お取引口座のある証券会社等または特別口座管
理機関 日本証券代行(株)へお問い合わせ下さい。

未受領の配当金の受取りについて

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株) 証券代行部までお問い合わせ下さい。

単元未満株式 (100株未満の株式) の買取・買増請求について

一般口座の株主さまは、お取引口座のある証券会社にてお取扱いしております。
特別口座の株主さまは、特別口座管理機関 日本証券代行(株)へお問い合わせ下さい。

特別口座から一般口座への株式振替のお願い

特別口座管理機関 日本証券代行(株)へお問い合わせ下さい。

注)特別口座のままでは市場において株式を売却することはできませんので、必ず証
券会社に一般口座を開設 (既に開設されている場合不要) し、特別口座から一般
口座へ振替申請を行って下さい。

>> 郵便物送付先・お問い合わせ先

株主名簿管理人

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)
ホームページアドレス
<https://www.tr.mufj.jp/daikou/>

特別口座管理機関

〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
☎ 0120-707-843 (フリーダイヤル)
ホームページアドレス
<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>